令和6年5月24日
公益財団法人東京観光財団
総務部総務課（企画調査）

令和6年度「持続可能な観光加速化事業」海外最新情報の収集
報告書

1） 会議名：GSTC Global Sustainable Tourism Conference 2024 in Stockholm

2） 主催者：GSTC (Global Sustainable Tourism Council)

3） 期間：2024 年 4 月 23 日（火）～4 月 26 日（金）

4） 開催都市：スウェーデン、ストックホルム

5） 会議参加者数等：

・50 か国以上、約 500 名
・欧州各国、北米、オーストラリア、韓国、台湾、シンガポール、タイ等各国より参加

6） プログラム全体概要

・24日・25日の2日間がメインの日程。参加者は約20のセミナーから選択。

7） 参加したセッションのテーマ、内容及びその所感等

- 開会セレモニー・基調講演

・スウェーデン・ヴィクトリア皇太子が来場。
＜地球温暖化で、欧州のバケーションに変化＞
・フレドリック・ラインフェルド元首相が基調講演。幼いころ、家族は「travel to the sun」という表現で、バケーションは太陽の日差しを楽しみにいくことを意味した。いまはその表現が適さないくらいに、地球温暖化が進行し、夏は南欧からスウェーデンに避暑にくるビジターが増えた。Coolcation と言える動き。ただ、飛行機での移動を止めてしまえば、列車しか使えない。豪州、アジア、世界の人々と会うことは重要であり、そのためには、旅行とホスピタリティ業界が必要である。世界に寛容さを生み出すために、「観光と持続可能な旅行」は重要、と述べた。

- 「デスティネーション・レベルでの業界ステークホルダーの参画」

・＜ユールゴルデン島・スウェーデン＞世界で初めての国立都市公園であり、域内に約 22 の博物館やミュージアム、30のレストランなどがある。エリア一帯が CO2 排出量削減の集中的取り組みエリアになっている。また、エリア一帯で「化石燃料を使わず、交通の利便性を向上させる」「サステナブルな

食事」「オープンでアクセシブル」「持続可能性に関する世界的展示」を共通テーマに細かに目標設定。
・＜セントーサ島・シンガポール＞2030 年までに「カーボンニュートラルな都市管区」「世界的な持続可能な観光地としての認知」を実現するべく取り組んでいる。
・90％以上を輸入食材に頼る同国において、域内レストランで地域食材活用を推奨。
・域内施設にソーラーパネルを設置し、年間約 2,600 トンの CO2 を削減。これはホテル 97,700 泊分の CO2 排出量に相当。エリア一帯で、統一した排出量測定基準を設けている。

● 「フードロス削減」

・食品廃棄物は、世界の CO2 の 8％を占めている。
・2030 年までに、食品廃棄物は 60％増加すると予想され、億米ドルの損失となる。
・フードロスは、農作物を作る過程⇒食品加工・パッケージ⇒輸送・ロジ⇒小売店での販売／レストランでの提供／個人での消費・・・のすべてのプロセスで出てくるロス。
・このプロセスにおいて大量の CO2 を排出。
・課題は「季節性と需要の変動」「ビュッフェとオールインクルーシブの提供」「経営資源に乏しい多くの中小企業（飲食店等）」「文化的障壁（食事は多い方が豊か、残す方が豊かというアジア圏の文化など）」等。認識や管理システム／データの規制や食品安全規制も影響。
・ストックホルムのケータリングサービスを運営する SOPKÖKET は、市内のスーパーマーケット等と提携し、廃棄される食材を回収し boxed meal として（経済的に問題を抱える）市民に提供している。また、フードロスの良いガイドライン例として「Great taste Zero waste」の取組を紹介。
https://www.greattastezerowaste.eu/
・プーケット島では、域内ホテルやレストラン、モールの廃棄可能性のある食材を回収、クラウドキッチン（デリバリーやテイクアウト用食品のみの準備を目的として使う厨房のこと）で加工、地域コミュニティに弁当として提供。弁当の価格は消費者が自由に設定する。
・「日本の旅館は、ビュッフェではない。適切な量の弁当（ご膳）が提供されている」、と良い例として紹介。旅館は、ホテルのようなオールインクルーシブのビュッフェではない分、フードロスが少ないという印象を持たれている。

● 「観光におけるアクセシビリティとインクルージョン」

・世界全体で、推定 10 億人以上の障害者がいる
・障害者の配偶者、子供、介護者などが 20 億人以上おり、それは世界人口のほぼ 3 分の 1
⇒アクセシブルツーリズムはその市場規模が大きい
・アクセシビリティとインクルージョン両方に対応することで、観光地や観光事業者は顧客ベースを拡大し、収益を増加させることができる。
・例えば、旅行中に起こる以下のような問題は、なくしていく努力が必要。
　〇肌の色のせいで、厳しく監視される（または尾行される）。
　〇宿泊施設によって、自分の結婚やパートナーとの関係を判断にされる。（部屋タイプやベッド数）
　〇フィジカルな障害等で体験に参加できない、場所に行けない。

〇宗教上の理由や健康上の理由で、適切な食事を見つけることができない。
・アクセシブルツーリズムは車いす対応だけではない。優先順位をつけず、歩行が困難な人、目が不自由な人、耳が不自由な人、持病を抱える人など、考え得るすべての障害に対して、全体的に取組を進める。
・観光地が作成する動画やサイト、各種デジタルコンテンツは、すべての人がアクセスでき、平等に見て楽しみ、読むことが出来るか。こうした視点で、各マテリアルを見直す。
・観光情報、その他の案内に「アクセシビリティ」に関するタブや QR コードがあり、情報が集約されていることが非常に重要。

● 「中小企業(SMEs)と認証取得における課題」

・小規模なホテルや宿泊施設が GSTC 認証にチャレンジする形態として、「グループサーティフィケーション」という手法がある。認証取得には人的・資金的なハードルがあるため、地域の DMO がグループマネージャーとなり、複数のホテルをまとめて申請する「グループサーティフィケーション」が有効。

● 「サステナビリティの測定と評価」

＜サステナビリティは公表することよりもどう公表するかが重要に＞
・Booking.com は 2021 年、宿泊施設におけるサステナビリティを OTA 上で可視化する独自プログラムである「トラベル・サステナブル」を開始した。
・しかし2024年4月にオランダ消費者市場庁により「トラベル・サステナブルと言う主張は、旅行が持続可能であるという誤った印象を消費者に与える可能性がある」との指摘が入り、プログラムは廃止。
・同社は約10年間発行する「サステナブル・トラベルレポート」に触れ、旅行者のサステナビリティへの関心は増しているが、まだ「say do gap(言うこととやることの差)」があると指摘。
・スウェーデンでは、キャッシュレスが浸透し、現金はほぼ使われない。スウェーデン経済・地域成長庁はキャッシュレスを進めることにより、VISA や MasterCard と連携し、地域ごと、自治体ごとの消費や経済インパクトを測っている。
・観光による悪影響を直接可視化することは難しいとしても、ホテルの認証取得はその事業者にとっても重要な KGI となる。(地域にとって認証取得ホテル件数は重要な KPI になり得る。)
・大手 OTA の easyjet 代表は、データを出来る限り地域レベルにブレイクダウンすることが KPI 設定をより簡単にし、地域行政はそこへの投資をするべき、であり、地域に観光が与える悪影響に焦点を当てることが具体的 KPI に繋がる、とした。

● 「ビジターにより長期滞在を促すために」

・長期滞在やオフシーズンの訪問を奨励することで、観光地は、「スロートラベル」客を開拓することができる。このことは、訪問者から得られる利益を多様化・分散させ、オーバーツーリズム問題の緩和にも繋がる。
・フィジー政府観光局は、パンデミックを機にデスティネーションをリブランド。「楽園」のイメージだけで

なく、Authenticity と Culture をテーマに、暮らす人々の伝統や文化にフォーカスしたストーリーテリングを強化した。
・ストーリーテリングは、その土地をじっくり学び、楽しむことに繋がり、長期滞在を促すカギ
・それにより、教育旅行の需要も開拓した。
・まずは、（地域にとっての）ターゲット＝来て欲しいビジター像を決め、そこへストーリーテリングを絞り込むという努力が必要。

8）　【補足】その他の気づき（環境対策、会議ロジ、公共交通機関やホテル）

出張者撮影

・出席者の移動 CO2 排出量は計算され、Visit Sweden によってオフセット
・紙やプラスチックの使用量は最低限、バッジはリサイクル可能な紙の利用、会議では使い捨てプラスチックの利用なし。
・食事はすべてベジタリアンで、多くの料理が完全菜食主義者（ビーガン）用
・ミルクは、植物由来（オーツミルク等）オプションも必ず設置。
・コーヒー、紅茶はオーガニックで、ペストリーもビーガン
・移動は公共交通機関利用が奨励され、徒歩圏内の会場も用意された。
・スウェーデン民族学博物館やホテルハッセルバッケン等の会場では、トイレの入り口が男女すべて一緒。扉をあけると、通常の女性用トイレのように複数の個室がある。

出張者撮影

・ホテルは GreenKey 認証マークが玄関に
・公共交通機関は市の運営会社 SL による管理。旅行者は、バス・地下鉄、トラム、フェリーで使える共通カード（Travel card）を携帯のアプリ経由もしくは現物（PASMO のような交通系ICカード）を購入することで、自由に利用できる。街中のコンビニで買うことが出来る。地下鉄、バスの 1 回券はクレジットでも支払可。
・ストックホルム中央駅のインフォメーションには、市内の紙マップ配架もあり。（写真：左・真ん中）
・ストックホルムアーランダ空港のインフォメーションセンターは車いすマークが明確。（写真：右）

出張者撮影

出張者撮影

出張者撮影